

人文書・歴史書 ご担当者 様

有志舎の新刊です。2025年3月下旬刊行

シリーズ「問いつづける民衆史」(全11巻) 第二回配本

闘う「不可触民」

—周縁から読み直すインド独立運動—

志賀美和子 著

四六判・ハードカバー・420ページ 本体価格 3,400円

非愛国的・売国奴と非難されながらも、「インド国民になる事」より人間としての尊厳と権利を求め続けた「不可触民」の闘いを描き出す。

【目次】

プロローグ 「マダム、私は不可触民ではない」
第一章 イギリス統治下のカースト制再編と「不可触民」
第二章 モンファド改革と非バラモン政権の誕生
第三章 模索する「不可触民」——自尊運動との関係
第四章 生きることと誇りをもつことの狭間で
第五章 政治の場で訴える——「不可触民」とサイモン委員会
第六章 政治の場で闘う——「不可触民」とガンディー
第七章 「不可触民」包摂の試みとその影響
エピローグ 「インド国民」でもなく「タミル人」でもなく——問いつづける「不可触民」

〈著者紹介〉志賀美和子 (しが みわこ)：専修大学文学部教授 (インド近代史)

～版元から～ 「不可触民」——それはヒンドゥー教的観点から「不浄」と見なされる職業に従事し、それゆえに差別の対象となってきた人びと。現代インドでは、公式には「不可触民」は存在しないことになっていますが、実際には差別は存在し、それへの異議申し立てが行われ続けています。本書は、イギリス統治下において、そして独立運動が展開する過程においても、抑圧され周縁に追いやられた人びとが声を上げていく姿と、それをさらに抑圧し周縁に追いやろうとする人びとの相互作用、そしてナショナリズムが高揚し「インド国民」が定義されていく中でも、あえてそれに異議を唱え「非愛国的」とのレッテルを貼られながらも抵抗していく「不可触民」の行動原理を汲み上げます。

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南4-19-2 クラブハウスビル1階 (有)有志舎 電話:03-5929-7350

番線印	ご注文	発行：有志舎	分野
	冊	〈問いつづける民衆史 2〉 闘う「不可触民」 —周縁から読み直すインド独立運動— 志賀美和子 著	インド史 (近現代)
	ご担当	四六判・ハードカバー、420ページ 本体価格 3,400円	弊社はいつでも返品を受け付けていますが、逆送のご心配がある場合は、「永滝 了解」として返品下さい。
	様	新刊 ISBN978-4-908672-82-8 C1022	

ご注文は 有志舎 担当：永滝 (ナガタキ) まで FAX：03-5929-7352

当社商品の取扱取次はトーハン・JRC・八木書店ですが、日販・楽天 BN ほか、いずれの取次でも左記取次経由で送品します。なお、JRCからも同じ注文書が重複して送られた場合は、この注文書だけを弊社にご返信ください。